

第13回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

京大病院における 新型コロナウイルス感染症拡大下での がん診療連携の取り組み

京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学講座
京都大学医学部附属病院 腫瘍内科

武藤 学

京都府

総人口	2,539,000人 (京都市約150万人)
がん 死亡者数	7,711人 (全死亡26,654人)
がん死亡者 割合	28.9%
高齢化率 (65歳以上)	28.5% (全国平均28.1%)

平成30年データ

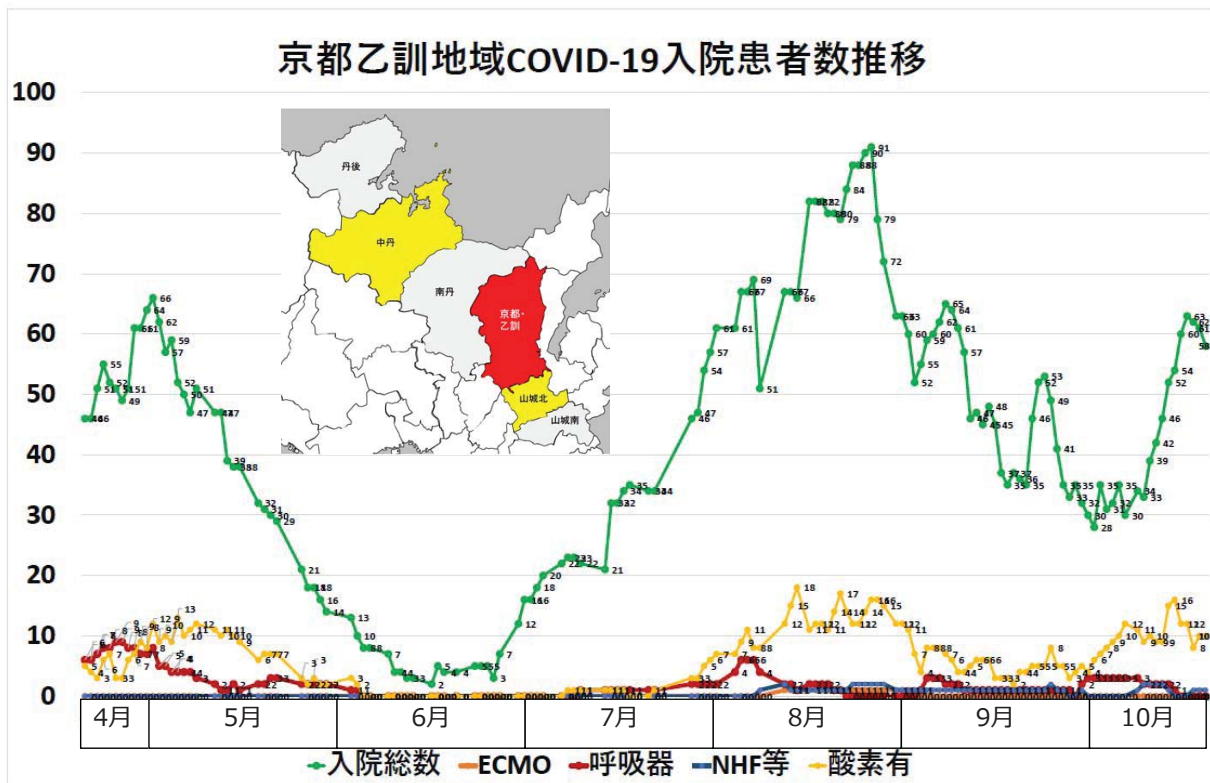


京都府の二次医療圏とがん診療基幹病院



二次医療圏（6圏域）

- 医療圏間で、がん治療実績（手術、放射線、薬物療法の実施数）に偏在
- 医師不足等で医療資源が限られる医療圏がある⇒依然として均てん化が課題



⇒ 第2波はピークアウトしたが収束はしておらず、引き続き警戒が必要な状況

事の発端は、、、、

3-4月に
隣県での新型コロナウイルス感染症(COVID-19)
拡大により

- ・緩和ケア施設での新規患者受け入れ停止
- ・在宅医での新規患者受入停止



がん拠点病院等から緩和ケア患者の紹介が
出来なくなる可能性があり不安が広がる

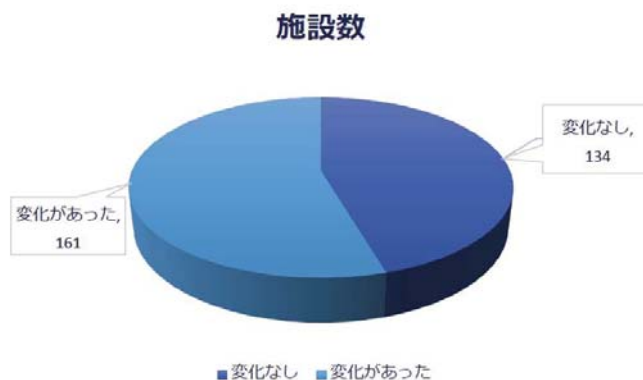


緩和ケア施設での受入が出来なくなれば、
癌治療を担うがん拠点病院での診療も機能
不全に陥る

緩和ケア病棟：患者の受け入れの変化

n=295

- ・新型コロナウイルス感染症の流行後、緩和ケア病棟の患者受け入れ方針に変化はありますか？



※ 22施設 (全体の7.5%) では、緩和ケア病棟が新型コロナウイルス感染患者専用病棟に変更され、1施設で半数の病床が感染症対応病棟に変更された。

具体的にどのような変化があったかは不明

緩和ケアチーム：前年度との患者依頼数の変化

n=303 うち緩和ケア診療加算算定施設が190施設（63%）



42%（127/303）の緩和ケア施設で依頼数が減少

日本緩和医療学会COVID-19関連特別ワーキンググループ
日本ホスピス緩和ケア協会
国立がん研究センターがん対策情報センターがん医療支援部

京都市内の状況を把握し
癌治療—緩和医療が機能不全に陥ることを防ごう！

定期的なWeb会議



京都ホスピス緩和ケア病棟連絡会
（12医療機関）のコアメンバー

感染症指定病院かつがん拠点病院
（5施設）のコアメンバー

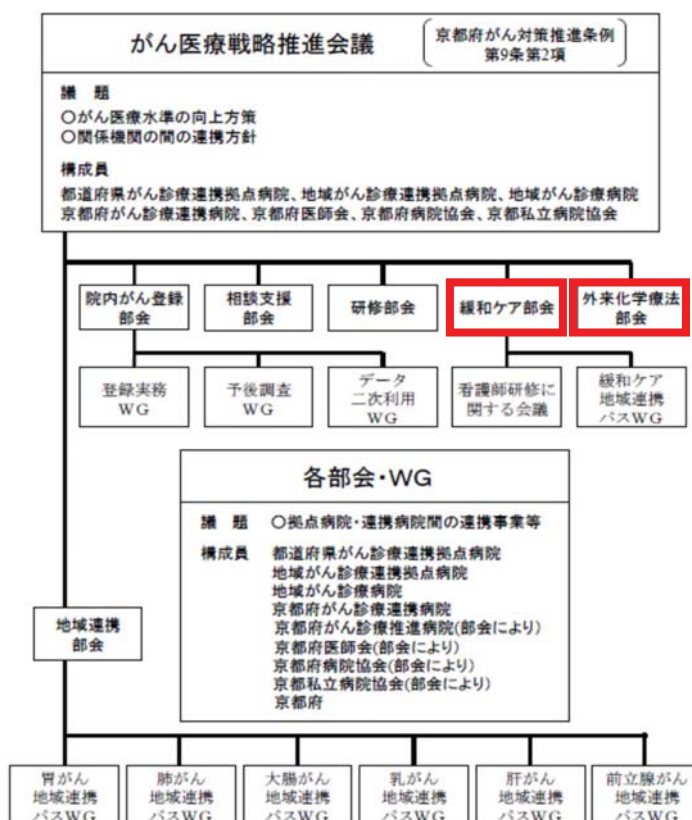


- ・ 緩和ケア病床の受入状況の情報共有
- ・ 新型コロナウイルス感染に対する不安材料の洗い出し

Web会議でとことん議論した

時期	課題
令和2年3月末頃	COVID-19拡大に伴い、院内感染等の理由により滋賀県内で緩和ケア・在宅医の受入が止まる
令和2年4月頃	京都府内でも、緩和ケア対象患者の紹介に際し、受け入れ側からCOVID-19の確認をして欲しいという要望がある
令和2年4月中旬～	京都ホスピス緩和ケア病棟連絡会のコアメンバーと今後どのように対応すべきか意見交換
令和2年4月下旬～	京都ホスピス緩和ケア病棟連絡会のコアメンバーと感染症指定病院のうち、がん拠点である京大・府立医大、COVID-19患者を多く受け入れていた市立病院で、まず、今後どのように対応すべきか意見交換 その結果を、 京都府がん医療戦略推進会議の外来化学療法部会長（武藤）、緩和ケア部会長（天谷教授@京都府立医大） から京都府がん医療戦略推進会議に上申し府内への周知を目指す。
令和2年5月～	京都第一日赤病院、京都第二日赤病院も加えて意見交換
令和2年5月～7月 (5/1, 5/13, 6/8, 7/13)	「新型コロナウイルス感染症の流行下におけるホスピス緩和ケア病棟との病病・病診連携について」の意見書を纏め、コンセンサスを得る
令和2年7月末	京大・府立医大 両病院長に意見書を伝え、賛同を得る。 京都府がん医療戦略推進会議の外来化学療法部会・緩和ケア部会でのコンセンサスを確認するようにと指示
令和2年8月20日	京都がん診療推進戦略会議 外来化学療法部会・緩和ケア部会合同臨時部会 「新型コロナウイルス感染症の流行下におけるホスピス緩和ケア病棟との病病・病診連携について」のコンセンサスを得る
令和2年8月末	京大・府立医大 両病院長から、京都がん診療推進戦略会議 に情報共有の要望
令和2年9月3日	京都がん診療推進戦略会議 外来化学療法部会（緩和ケア部会も参加）
令和2年9月11日	京都がん診療推進戦略会議 開催。後日、「新型コロナウイルス感染症の流行下におけるホスピス緩和ケア病棟との病病・病診連携について」のコンセンサスが発出された。

京都府がん医療戦略推進会議



緩和医療施設からの要望

- ・ 紹介時のPCR検査実施

→緩和ケア施設における院内感染リスクを避ける

がん治療施設からの要望

- ・ PCR検査のハードルの高さ

→医師が必要と判断すれば積極的に行えることの共通理解

令和2年8月21日

関係者各位

京都府がん医療推進戦略会議 外来化学療法部会・緩和ケア部会

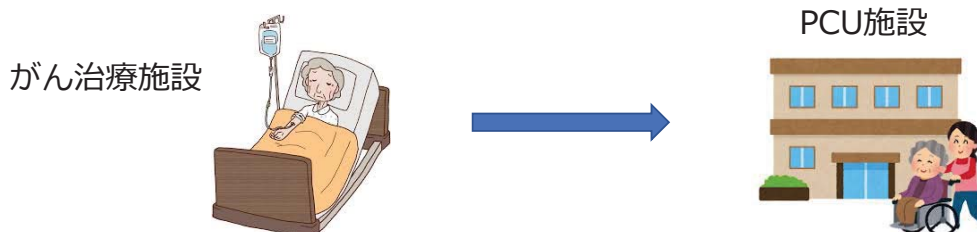
新型コロナウイルス感染症の流行下におけるホスピス緩和ケア病棟との病病・病診連携について

京都府のがん診療および緩和ケア(PCU)の機能を守るべく、がん診療における円滑な病病・病診連携の維持と、PCUにおける新型コロナウイルス感染症の院内感染を防止するために、関係者各位におかれましては、以下の点について、周知、徹底をお願いいたたく存じます。

【がん治療病院 → PCU施設への入院について】

1) がん治療病院に入院中の患者の転院の場合

- 転院前に、医師が必要と判断した場合*は、新型コロナウイルスのPCR検査（およびCT検査）を実施し、陰性を確認した上で転院させる。
*入院中に濃厚接触や感染を疑う症状がなければ医師の判断に委ねる。
- 家族の面会を制限する。
- 面会する家族には行動制限を守っていただく（大人数での会食、感染拡大地域への移動、夜の街、カラオケに行かない等）。守られない場合は、患者対応に支障を来すことを理解していただく。



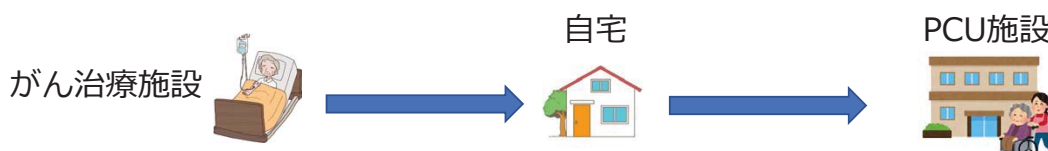
13

【がん治療病院 → PCU施設への入院について】

2) PCU施設紹介後、自宅で療養中の場合で、本人の体調が比較的良い場合（緊急入院の必要がない場合）

医師が必要と判断した場合において

- PCU受け入れ施設でPCR検査が実施できる場合（外注含む）→ PCU施設でPCR検査を実施し受け入れる。
- PCU受け入れ施設でPCR検査が実施できない場合 → 紹介元のがん治療病院でPCR検査を実施し、陰性を確認しPCU施設へ受け入れを依頼する。
- 同居を含めた家族に行動制限を守っていただく（大人数での会食、感染拡大地域への移動、夜の街、カラオケに行かない等）。守られない場合は、患者対応に支障を来すことを理解していただく。

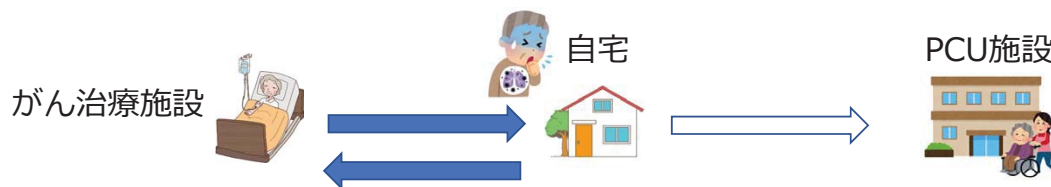


14

【がん治療病院 → PCU施設への入院について】

3) PCU施設紹介後、自宅で療養中の場合で本人の体調が良くない場合 (緊急入院が必要な場合)

- 紹介元のがん治療病院に入院し、PCR検査（およびCT検査）を実施する。
- 病状の進行が進み、転院が難しい場合は、紹介元のがん治療病院で対応する。病状が改善すれば、PCR検査を再度行い、陰性を確認後にPCU施設に転院させる。
- 同居を含めた家族に行動制限を守っていただく（大人数での会食、感染拡大地域への移動、夜の街、カラオケに行かない等）。守られない場合は、患者対応に支障を来すことを理解していただく。



15

京都府健康福祉部健康対策課、京都府がん医療戦略推進会議名 での通知発出（R2.9.18）

京都府がん医療戦略推進会議構成団体の長 様

京都府健康福祉部健康対策課

新型コロナウイルス感染症の流行下におけるホスピス緩和ケア病棟と
の病病・病診連携について（通知）

平素より京都府のがん対策施策に御理解・御協力賜り、厚く御礼申し上げます。

令和2年9月11日開催の京都府がん医療戦略会議において、合意された新型コロナウイルス感染症の流行下におけるホスピス緩和ケア病棟との病病・病診連携について、別添のとおり府内医療機関に周知しておりますので、ご承知願います。

新型コロナウイルス感染症の流行下におけるホスピス緩和ケア病棟との連携・病勢連携について

各医療機関、各位におかれましては、平素よりがん診療と緩和ケア診療における連携に関し多大なご尽力を賜り感謝申し上げます。

さて、京都府下における新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、がん治療を担う基幹病院からホスピス緩和ケア病棟（PCU）への転院や入院に關して、いくつか課題がでてきているようです。一方、がん治療病院においては、新型コロナウイルス感染症の対応をしつつ、がん診療と緩和ケアの提供の両立を目指していかねばならない難しい状況に置かれています。また、PCUにおかれましては、その機能維持のため新型コロナウイルス感染症対策に細心の注意をはかっている状況と伺っています。

この状況を鑑み、京都府のがん診療および緩和ケアの機能を守るべく、がん診療における円滑な病勢・病勢連携の維持と、PCUにおける新型コロナウイルス感染症の院内感染を防止するために、関係者各位におかれましては、以下の点について、周知、徹底をお願いいたたく存じます。

ご多忙の中、誠に恐れ入りますが、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

*なお、以下の文章での「PCR検査ができる」は保険適応内でできることを想定しています。自費もしくは御施設での負担で実施する場合は、臨機応変に対応していただければ幸いです。

記

【がん治療病院 → PCU施設への入院について】

- 1) がん治療病院に入院中の患者の転院の場合
 - ・転院前に、医師が必要と判断した場合は、新型コロナウイルスのPCR検査（およびCT検査）を実施し、陰性を確認した上で転院させる。*入院中に濃厚接触や感染を疑う症状がなければ医師の判断に委ねる。
 - ・家族の面会を制限する。
 - ・面会する家族には行動制限を守っていただく（大人数での会食、感染拡大地域への移動、夜の街、カラオケに行かない等）。守られない場合は、患者対応に支障を来すことを理解していただく。
- 2) PCU施設紹介後、自宅で療養中の場合で、本人の体調が比較的良好な場合（緊急入院の必要がない場合）
 - ・医師が必要と判断した場合において
 - ・PCU受け入れ施設でPCR検査が実施できる場合（外注含む）→ PCU施設でPCR検査を実施し受け入れる。
 - ・PCU受け入れ施設でPCR検査が実施できない場合 → 紹介元のがん治療病院でPCR検査を実施し、陰性を確認しPCU施設へ受け入れを依頼する。
 - ・同居を含めた家族に行動制限を守っていただく（大人数での会食、感染拡大地域への移動、夜の街、カラオケに行かない等）。守られない場合は、患者対応に支障を来すことを理解していただく。
- 3) PCU施設紹介後、自宅で療養中の場合で本人の体調が良くない場合（緊急入院が必要な場合）
 - ・紹介元のがん治療病院に入院し、PCR検査（およびCT検査）を実施する。
 - ・病状の進行が進み、転院が難しい場合は、紹介元のがん治療病院で対応する。病状が改善すれば、PCR検査を再度行い、陰性を確認後にPCU施設に転院させる。
 - ・同居を含めた家族に行動制限を守っていただく（大人数での会食、感染拡大地域への移動、夜の街、カラオケに行かない等）。守られない場合は、患者対応に支障を来すことを理解していただく。

【家族等、患者と接する人への協力依頼】

- ・患者と接する人には、不要不急の外出を控え、十分な感染対策を行うよう依頼する。

以上

第8回京都府がん医療戦略推進会議 外来化学療法部会

2020年9月3日（木）18:00～19:30 WEB開催

主催 京都大学医学部附属病院

議事

- ① 2020年度診療報酬改定において新設された連携充実加算に関する各施設の取組状況に関して
（アンケート集計結果報告、課題の整理、今後の対策の検討）
- ② 外来化学療法部会・緩和ケア部会 臨時合同会議 開催報告
- ③ COVID-19 対策のための各施設の具体的な体制に関して
（アンケート集計結果報告、課題の整理、今後の対策の検討）
- ④ COVID-19 パンデミック下におけるがん薬物治療と病勢連携、緩和ケア／在宅ケアとの連携に関して
（アンケート集計結果報告、課題の整理、今後の対策の検討）

参加医療機関

- 京都府立医科大学附属病院
- 京都府立医科大学附属北部医療センター
- 京都第二赤十字病院
- 京都市立病院
- 京都第一赤十字病院
- 京都医療センター
- 京都桂病院
- 宇治徳洲会病院
- 市立福知山市民病院
- 京都山城総合医療センター
- 京都中部総合医療センター
- 舞鶴医療センター
- 京都岡本記念病院
- 京都三菱病院
- 京都民医連中央病院
- 綾部市立病院
- 京都大学医学部附属病院



アンケート結果 ～SARS-CoV2検査の状況

			A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	備考	
検査	PCR	自施設	○	○		○	○		○	○				○		○	○		
		外注	○	○	○	○		○				○	○	○	○	○			
		実施していない																	
	抗体	自施設	○																
		外注			○	○										○			
		実施していない		○			○	○	○	○		○	○	○		○			

アンケート結果 ～COVID-19トリアージ対応職種～

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	備考
医師	○						○			○		○	○	○	○	
看護師	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
薬剤師										○		○				
事務	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	
その他										○						放射線技師、PT

アンケート結果 ～新型コロナ禍下でがん薬物療法を施行する際の注意点～

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
患者の行動制限 (3密回避等指導)	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
同行者の制限	○	○	○	○	○		○				○	○	○		○
ハイリスクな抗がん薬の 投与回避															
経口薬への変更	○			○											
スケジュール調整 (適宜延期等)	○			○	○										
有害事象対策のための薬 剤事前処方により来院回 数を減らす	○									○					

アンケート結果 ～他院への紹介時の注意点～

	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
発熱がないことの確認	○		○	○		○				○		○	○	
濃厚接触がないことの確認			○	○		○				○		○	○	
無症状でもPCR施行														
発熱や有症状時のみPCR施行			○			○				○				
CT検査施行						○								

京都がん診療推進戦略会議 外来化学療法部会/緩和ケア部会合同委員会 2020.9.3

- 1) COVID-19予防の観点から、すべての施設で何らかのトリアージを実施
 - ・スタッフの身体的・精神的負担が増加
- 2) 緩和ケア施設からの依頼に対し、PCR検査を実施している施設もある
- 3) 外来化学療法でのCOVID-19発生時
 - ・濃厚接触者がいないことを確認し、外来化学療法は止めずに対応
 - ・副作用とCOVID-19症状との区別が難しいことがある
 - ・スタッフの負担増
- 4) 患者へのオリエンテーション、家族付き添いを制限
 - ・情報共有の機会の喪失
 - ・患者/家族の不安
- 5) 県をまたいでの緩和ケア紹介の際、2週間の自宅待機を要請された。